

交流の縁より深く

地方移住自治体が応援

東京都内の自治体で住民の地方移住を支援する動きが出てきた。杉並区は北海道名寄市と連携し、主に子育て世代に同市の生活環境などをPRする。豊島区は埼玉県秩父市への「お試し移住」などの検討を始める。いずれもかねて交流がある自治体同士。住民の移住支援は、災害時の相互支援など協力関係を一段と深めるきっかけにもなりそうだ。



杉並区は移住説明会で北海道名寄市の魅力を紹介した

子育て世代へお勧め

杉並区↓北海道・名寄 豊島区↓秩父

「お試し」検討に着手

杉並区はこのほど、名寄市と移住に関する住民説明会を開いた。主な対象は自然が豊かな移住先として名寄市をPRする。関心を持つ人は同市の担当者を紹介し、子育てや医療といった生活面も含め、現地でのサポート策を伝えてもらう。

名寄市とは農産物の販売支援などの交流を続けてきた。同市が人口減少に悩んでいることから、新たな取り組みとして移住支援を打ち出す。

田中良区長は「自然に囲まれて過ごしたい住民の潜在需要はある。移住先の自治体には経済的なメリットが大きい」と話す。杉並に住居を置きつつ夏場は涼しい北海道で暮らす、といった地域居住も奨励する。

同区は既に静岡県南伊豆町と連携し、同町への

移住促進に取り組んでいる。名寄市とも連携し、区民の移住の選択肢を増やす。

豊島区は姉妹都市の秩父市と連携し、短期間滞在して地域になじむ「お試し移住」の検討に着手する。2017年度以降の事業化を予定している。元気な高齢者や子育て世代に地方への移住を促す「CCRC」構想の

一環として進める。杉並、豊島両区にとつて、地方の自治体との連携を深めることにより、どちらかで災害が起きた時の相互支援のほか、児童・生徒の交流など補完関係を強められる利点もある。

ただ、現役世代の安定的な就労の場や、高齢者の医療や介護の必要性に応じられる体制づくりも必要で、実現には課題も多い。

民の相互理解が不可欠と判断。双方の区民・市民が街づくりの提案書をまとめた。①多世代が共生できる住まい・コミュニティの形成②継続的な交流の輪を広げる施策③多様な動き方を支援する仕組み―などが必要と指摘した。

職員の人事交流についても検討を始める。両区市の住民らがまとめた提案書で挙がっていた「シェアハウス」「自然の中

での子どもの遊び場」などの計画についても、同市と話し合う見通しだ。同市は市営住宅を活用する。

杉並、豊島両区にとつて、地方の自治体との連携を深めることにより、どちらかで災害が起きた時の相互支援のほか、児童・生徒の交流など補完関係を強められる利点もある。